

第4章 農業、鉱業を含めた産業廃棄物

第1節 農業

農業からの産業廃棄物は、関係部門の資料を基に畜産農業からの動物のふん尿及び施設園芸農業からの廃プラスチック類について調査を実施した。

その結果は表4-1-1、表4-1-2のとおりである。

表4-1-1 農業からの産業廃棄物

対象物	関連資料の出典等	排出量
動物のふん尿	＊活動量：「都道府県別家畜・鶏飼養頭羽数」 （「日本統計年鑑」総務省統計局）による 「食鳥流通統計調査」 （農林水産省資料）による ＊ふん尿発生原単位：「堆肥化施設設計マニュアル」 （中央畜産会）による	978千 t/年
農業系廃プラスチック類	＊発生量：三重県農業用使用済プラスチック適正 処理推進協議会の調査による	348t/年

表4-1-2 農業系廃プラスチック類

(t/年)

再生処理	埋立処理	焼却処理	その他	合計
215	98	35	0	348

第2節 鉱業

鉱業からの産業廃棄物については、標本調査により実施した。

鉱業からの発生量は、1,586千 tとなっている。種類別にみると汚泥が1,540千 tと全体の約97%を占めている。（表4-2-1）

発生量1,586千 tに対して、自己中間処理（自己中間処理量は1,575千 t）により1,209千 tが、委託中間処理（委託中間処理量は40千 t）により38千 tが減量している。

処理・処分は、発生量の約12%に当たる190千 tが採取跡地への埋め戻し等となっている。

表4-2-1 鉱業からの産業廃棄物

(千 t/年)

発生量	有償物量	排出量	減量化量	埋め戻し量等その他
1,586 (100%)	0 (0%)	1,585 (100%)	1,248 (79%)	190 (12%)

第3節 農業、鉱業を含めた総発生量

農業、鉱業を含めた産業廃棄物の総発生量は、10,154千tとなっている。
業種別種類別の発生量は、表4-3-1に示すとおりである。

表4-3-1 農業、鉱業を含めた総発生量

(千t)

	建設業	製造業	電気・水道業	運輸業 通信業	卸・小売業	サービス業	医療業	農業	鉱業	計
燃え殻	0	20	11		0	0				32
汚泥	156	2,867	729	0	11	1	0		1,540	5,305
廃油	10	159	0	0	4	2	0		10	186
廃酸	0	111	0	0	0	0	0			112
廃アルカリ	3	228		0	0	0	0			231
廃プラスチック類	14	127	0	3	14	1	3	0	0	162
紙くず	4	5								9
木くず	148	37								184
繊維くず	1	0								1
動・植物性残さ		32								32
ゴムくず		0			1					1
金属くず	21	445	1	1	4	1	0		0	473
ガラスくず等	13	454	0	0	1	0	0		6	474
鉱さい	0	117								117
がれき類	1,678	19	1	0	0				29	1,727
ばいじん		76	17			0				92
動物の糞尿								978		978
その他産業廃棄物	2	32	1	0	0	0	3			38
計	2,049	4,730	760	5	36	5	6	978	1,586	10,154

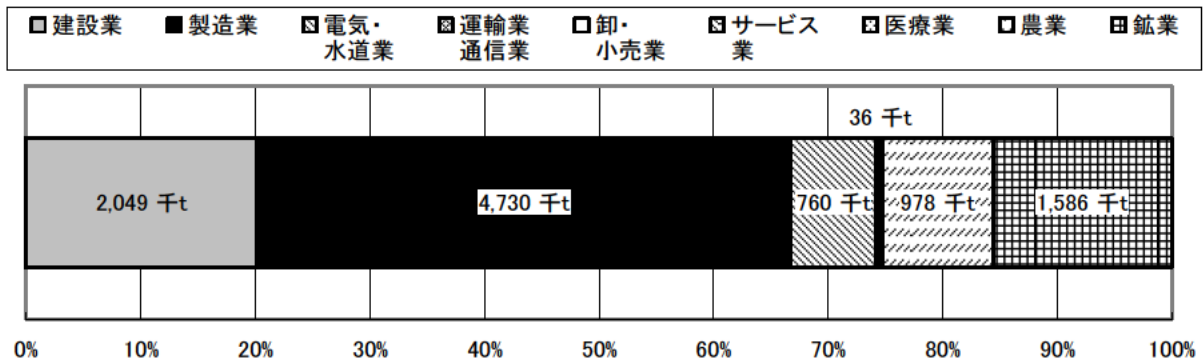


図4-3-2 産業廃棄物発生量の業種別割合

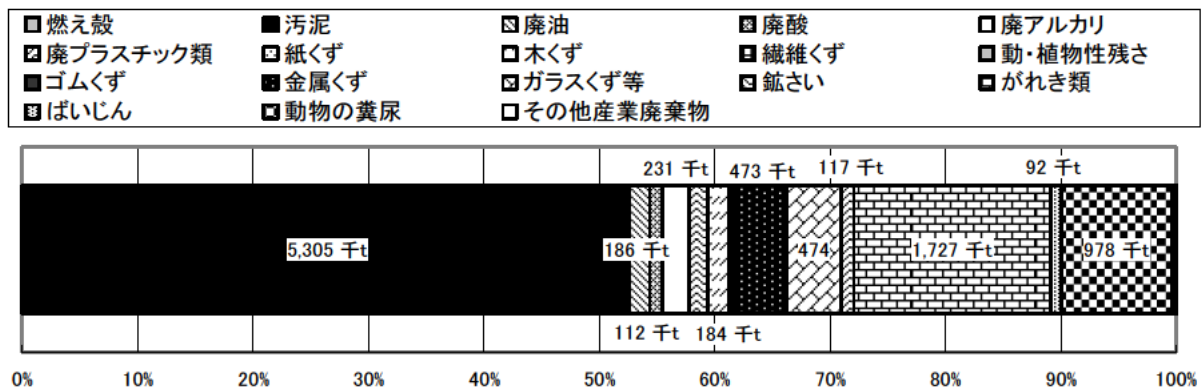


図4-3-3 産業廃棄物発生量の種類別割合